

霧島市

おもちゃ病院

おもちゃを修理し、子どもに笑顔を！

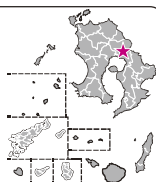
きりしまおもちゃ病院

びょういん

総人口 123,135人
高齢化率 28.0%
(令和2年国勢調査)



- (1) 活動地域
国分中央
- (2) 活動開始時期
平成21年5月
- (3) 会員
13人(令和5年3月現在)



1 活動内容

おもちゃ病院の開院

- 実施日：月2回（第2水曜日・第4日曜日）
- 時間：5時間程度（10：00～15：00）
- 場所：霧島市国分総合福祉センター

<診察手順>

- ① 子どもたちが壊れたおもちゃを受付に持参
- ② 子どもたちが診察申込書に記入
- ③ 受付でおもちゃドクター（会員）が問診
「どこが壊れているの？」「どう動かないの？」
- ④ おもちゃドクターたちが互いに意見交換しながら修理

※ 当日受け付けたおもちゃや開院日までに預かっていたおもちゃを修理して子どもたちに返しています。

※ おもちゃの修理代は原則無料ですが、部品交換が発生した場合は、実費としています。



2 活動までの経緯

(1) 取組の背景

コロナ禍やリモートワークにより家族が家で過ごす時間が増える中で、家庭で子どもとコミュニケーションが取れる「おもちゃ」を買う機会も多くなり、その結果、修理が必要なおもちゃも増えてきています。

(2) 活動の経緯

壊れたおもちゃを修理して使うことで、子どもたちの「物を大切に使う気持ち」を養うとともに、これまでの人生で得た技術や趣味を生かしたボランティア活動を行うことで会員（シニア世代）の生きがいを促すこと、世代間交流を図ることを目的に活動しています。

「活動を始めて1年です。月2回の活動が楽しみです！」
「活動1ヶ月、若葉マークです！」



3 これまでの活動

(1) 工夫していること

- みんなで協力して修理
音が出なくなった電子ピアノ、動かなくなったロボットやぬいぐるみなどの修理依頼が多く、自前の工具を手に修理します。
電子部品使用の複雑な構造のおもちゃが増え、修理が大変なときもありますが、おもちゃドクター同士で意見交換・協力し合い、丹念に確認して故障の原因を突きとめ、元通りになるように努めています。時には預かって修理することもあります。

○ おもちゃドクターの経歴も様々

13人のおもちゃドクターが活動しており、各人の経歴も、自営業、教員、工場に勤務していた者など様々です。

○ 依頼者への丁寧な説明

故障原因の中には電池切れということもありますが、そんなときでも、丁寧に説明し、笑顔でおもちゃを返しています。

○ イベントでの開院や工作教室の開催

霧島市健康福祉まつりや伊佐市文化祭など各種イベントでの開院や夏休み工作教室の開催など、色々な機会を利用して活動しています。（年間約170件のおもちゃを修理）

○ コロナ禍の開院

コロナ禍にあってもマスクの着用、三密の回避などの感染防止対策を取って、1回も休むことなく開院しました。

(2) 活動の成果

○ 子どもたちの笑顔が一番のやりがい

修理したおもちゃを返す時、子どもの顔がにっこりする瞬間に出会うとやりがいを感じます。



4 今後の抱負

会員の生きがいがづくりにもつながっていることから、今後も活動を継続できるような会員増加の取組にも力を入れるとともに、技術の更なる向上、新たな技術の習得に努め、引き続き、社会貢献活動を行ってまいります！

伊佐市

お助け隊

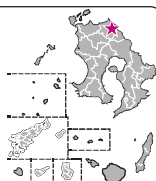
ちょこっとした困りごと引き受けます！

はつきこうく こうれいしゃ たす たい 羽月校区高齢者お助け隊

総人口 24,453人
高齢化率 41.6%
(令和2年国勢調査)



- (1) 活動地域
羽月校区
- (2) 活動開始時期
令和4年6月
- (3) メンバー
23人(令和5年3月現在)



1 活動内容

軽作業の実施

- 実施日：随時
- 内容：家屋周辺の除草及び草払い、家屋周辺の立木・竹林の伐採、ゴミ出し、買い物、家屋の簡単な補修
- 対象者：羽月校区が認める独居高齢者及び高齢者・生活不自由者
- 利用料：隊員1人当たり1時間500円

(軽作業実施前)



<活動の流れ>

- ① 利用希望者が自治会長や民生委員を通じて事務局へ依頼する。
- ② 事務局から隊の代表者へ連絡する。
- ③ 隊の代表者が、依頼内容が活動対象であるかを確認の上、該当エリアの隊員へと依頼を割り振る。
- ④ 該当エリアの隊員が作業を行う。
- ⑤ 作業終了後、隊員が利用者から利用料を受け取るとともに、事務局へ作業完了を報告する。

(軽作業実施後)



2 活動までの経緯

(1) 取組の背景

羽月校区は近年、高齢化が進行し、中でも一人暮らしの高齢者が増えている状況にあります。それに伴い、庭木の草払いやゴミ出しなど、生活における「ちょこっとした困りごと」で悩む人が多くなっています。

(2) 活動の経緯

校区内にある25の自治会へ高齢者支援活動への参加呼び掛けを行ったところ、多くの賛同が得られました。同時に、お助け隊結成に向けた、利用希望者の実態及び需要の調査で、支援を必要とする方々の存在も浮き彫りになりました。そこで、規約を定め、「各自治会からできるだけ多くの隊員登録を！」と呼び掛けて有志を募り、「羽月校区高齢者お助け隊」を結成しました。

「依頼者が気楽に気兼ねなく利用できる、お助け隊にしたいです。」



3 これまでの活動

(1) 工夫していること

- お助け隊本部（事務局）の設置
羽月地区公民館に事務局を常設して、依頼者や関係者からの電話連絡に対応し、お助け記録用紙の記入・整理などの事務処理をしています。
- 3エリアに分けて活動
校区内の自治会が25と多いため、3つのエリアに分けて、3人の代表者を置いて、1エリア6～8人の隊員で活動しています。
- 隊の設立・運営にあたっての補助・助成、隊員への報酬
・ 隊の設立に際し、伊佐市からの草刈り機5台分の購入費の補助及び羽月校区コミュニティ協議会からの補助がありました。
現在、赤い羽根共同募金配分金助成金を運営費にあてています。
・ 利用料500円は作業した隊員の報酬としています。
- 安全第一の作業実施
・ 安全を確保して作業を行い、無理な作業は決して行わず、休憩時間を適切に設け、水分補給を確実に行っていきます。
・ 作業は、原則複数人で実施しています。
- 依頼者との確認徹底
・ 作業に当たってはトラブルとならないよう、依頼者と事前に連絡をとり、家庭訪問などをして依頼内容等を十分に確認して実施しています。
・ 専門業者に依頼することが妥当と思われる作業は実施できませんが、作業の引き受けを迷ったときは、代表者の協議で実施の可否を決めています。
・ 作業終了後に確認印をもらって、利用料を受領し事務局に納めます。

(2) 困っていること

- 作業で出る草や枝の処分
自前の処分場がなく、作業で出る草や枝はそのまま残している状況にあるため、それを市の処分場に持ち込めないか行政に相談しています。

(3) 活動の成果

- 活動の原動力
依頼者が「大変助かった」と、喜んでくれることが大きな力となっています。

4 今後の抱負

まず、隊員の継続的な確保を図りたいです。
そして、今後、さらに支援の輪が広がり、各自治会単位でお助け隊が結成され活動できるぐらいにしたいです！

始良市

しらかねばるがやかい
白金原輝会

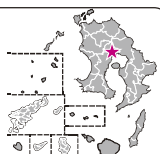
交流の場

協働活動で「健康・友愛・奉仕」を实践し、安全で安心して暮らせる地域づくり！

総人口 76,348人
高齢化率 31.5%
(令和2年国勢調査)



- (1) 活動地域
重富校区
- (2) 活動開始時期
昭和39年2月
- (3) 会員
49人(令和5年3月現在)



1 活動内容

- (1) 「月例会」の実施
 - 実施日：月1回(第4月曜日)
 - 時間：1時間30分(10:30~12:00)
 - 場所：白金原自治公民館
 - 参加者：35人程度
 - 内容：交通安全や健康づくりなどに関する学習
- (2) 「社会奉仕活動」
 - ◎ 清掃・環境美化活動
 - 実施日：月1回交互に(第3月曜日)
 - 内容：公民館及び通学路の清掃、公民館や国道沿い2か所の花壇整備(花の植栽、草取り)
 - ◎ 子どもの見守り活動
 - 実施日：会員によって毎日~不定期
 - 内容：通学路や生活道路での見守り
 - ◎ 高齢者宅訪問活動
 - 実施日：月1回(第3土曜日)
 - 内容：会員3人1組の2班で一人暮らしの高齢者宅を訪問
- (3) 広報誌「輝会だより」の発行
 - 発行月：月1回
 - 内容：輝会の活動や地域の話、子どもたちの活動の様子
 - 配布：会員及び自治会の各班で回覧



2 活動までの経緯

- (1) 取組の背景
国道10号線沿いの白金原は、鹿児島市や霧島市、鹿児島空港が近く、地の利を生かした地域づくりを推進しています。昭和30年代後半から高度成長期に入り社会教育関係団体(自治会、老人クラブ、こども会など)の活動が活発になりましたが、近年は働く女性が増加したことに伴い、団体活動が衰退してきました。
- (2) 活動の経緯
昭和39年2月に老人クラブとして活動を開始し、平成25年4月には、会員増を図るために「白金原寿会」から「白金原輝会」と改名しました。「生涯学習とボランティア活動」を目的に活動を展開し、今日に至っています。

「毎月、色々な学習ができて楽しいです！」
「地域のみなさんと花壇の整備や、子どもたちや高齢者の見守り活動などのボランティア活動をすることで元気がです。」



3 これまでの活動

- (1) 工夫していること
 - 学習内容の充実
月例会の学習では、「交通安全や健康づくり、介護予防、認知症の予防、さつま狂句、歴史学習、防火防災」など幅広くテーマを設定し、専門家の講話や実技指導で学習効果を高めています。
 - 世代間交流活動への参加
 - ① 市社会福祉協議会での「マナビバ」交流活動
 - ・ 実施日：夏休み期間の1日
 - ・ 内容：お手玉など4種目
 - ② 小学3年生対象の「昔あそび交流活動」
 - ・ 実施日：地域が育む「かごしまの教育」県民週間の1日
 - ・ 内容：ゴムとび、紙ひこうき、紙てっぽう、ヨーヨー、こま回しなど10種目
 - サークル活動の充実
 - ① グラウンド・ゴルフ同好会：毎週火曜日~金曜日 県立始良病院地域交流センター
 - ② 句会同好会：原則として毎月17日 白金原自治公民館
 - ③ カラオケ同好会：毎月第1月曜日 白金原自治公民館、市内カラオケ店
 - 関係団体等との協働活動
自治会や子ども会育成会、民生委員・児童委員との協働活動で効率的に活動を推進しています。
夏休み工作教室(年3回)、きらきら子ども食堂(年10回)、餅つき体験、七夕飾り、クリスマス飾り、秋まつり&子どもみこし
 - 見守り活動の制服
平成29年、「白金原見守り隊」を結成したことに伴い、周囲からパトロール中であることが一目でわかるように制服(帽子とジャケット)を製作し活動時に着用しています。
- (2) 活動の成果
 - 表彰を受賞
これまでの活動が認められ、白金原輝会が平成29年10月に鹿児島県知事から「高齢者を中心とした地域貢献活動」表彰を、白金原見守り隊が令和3年に始良警察署長から「防犯活動と地域の安全安心活動」表彰を受けました。



4 今後の抱負

「健康・友愛・奉仕」の精神で、協働で子どもや高齢者の見守り活動等を積極的に推進し、安全で安心して生活ができる地域づくりに更に貢献したいです！

湧水町

交流の場

みんな元気で体操・ゲーム・茶飲み話
しましょう！

ふれあい・いきいき下川添サロン「お茶飲ん会」

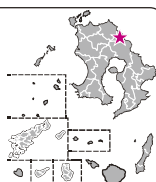
しもかわそえ

ちゃの かい

総人口 9,119人
高齢化率 44.2%
(令和2年国勢調査)



- (1) 活動地域
下川添地区
- (2) 活動開始時期
平成28年11月
- (3) スタッフ
10人(令和5年3月現在)



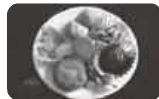
1 活動内容

サロンの実施

- 実施日：月1回(第4月曜日)
- 時間：2時間程度(10:00~12:00)
- 場所：下川添集出荷場
- 参加者：20~25人
- 参加費：100円
- 内容：健康体操、歌、パタカラ体操(誤嚥防止のための口・舌の運動)、楽器演奏(100円ショップで購入)、レクリエーション(お手玉を竹筒に入れるゲーム、サイコロ、野菜釣りゲーム)、お誕生日会、食事会、門松作り、非常炊き出し、ゴキブリ団子作り、人間お雑さま

※ サロンの運営

下川添公民館からの補助(年2万円)と、参加費やみんなの持ち寄りで茶菓子やお茶の経費を賄っています。



2 活動までの経緯

(1) 取組の背景

下川添地区は、町内でも高齢化率が高い地域であり、全体的にまとまりのある地域であったため、下川添集出荷場でみんなが集まり交流ができないかと自治会を中心に話し合いがなされました。

(2) 活動の経緯

民生委員・児童委員の声かけによりボランティアを募り5つの自治会で話し合い、サロンを設立しました。

「出来る人が出来ることを出来る時にする。」を合言葉に、スタッフ一同、皆さんの笑顔のためにがんばっています。



3 これまでの活動

(1) 工夫していること

- サロン名の由来
参加者のみんなでふれあってゆっくりとお茶を飲みながら語ろうということで、「お茶飲ん会」としました。
- レクリエーションは誰でもできるものを
参加者の年齢層が60歳代から90歳代までと幅広いため、誰でもできるレクリエーションをするように心がけています。
また、サロンへの参加にポイントを付与したり、ゲームの成績の合計点数で年間表彰をする等、参加者の意欲を高めています。
さらに、高齢者は次の開催日等を忘れやすいので、必ずチラシを渡すようにしています。

○ 活動内容はスタッフ各人の判断で

スタッフも、自分でできること、特技・得意なことをそれぞれ担当し、負担にならないようにしています。
毎回、サロン終了後、反省会と次回準備するもの話し合いをしています。

○ コロナ禍の運営

新型コロナウイルス感染症予防のためサロンが開催できなかった期間、高齢者が家から出なくなり会話もなく運動不足や健康状態が非常に心配されました。そこで、スタッフで話し合い、開催できない期間はスタッフが見守ることとし、感染防止対策をとりながらの声かけや、ペットボトルのお茶とメッセージを添えたチラシの配布などの活動をしました。

(2) 活動の成果

○ サロンが交流・安否確認の場

サロンを開催するまでは、自分たちの自治会のことしかわかりませんでした。5つの自治会と一緒に活動することで交流の場となり、安否確認の場にもなっています。

○ スタッフの活動意欲を醸成

参加者の喜ぶ顔を見ると何より嬉しく、たくさんの参加者が集まるとスタッフの活動意欲も高まります。

4 今後の抱負

最近では、70歳代でも現役で働く方が多く、老人クラブや高齢者サロンなどの地域活動に参加される方は少ない状況にあります。

「お茶飲ん会」に参加される方も80歳代、90歳代が多く、スタッフも年々歳を重ねるなど、高齢化が悩みですが、何とか後継者を確保してサロンを続けていきたいです！